

# 杉本寺

すぎもとてら

十一面観音立像  
(お前立ち)、  
毘沙門天立像ほか  
本堂中央の秘仏・杉本観音  
の前立ち像(像高180センチ、  
室町時代)は、源頼朝公寄進  
と伝えられる美像。向かって  
右の毘沙門天立像(像高  
163センチ、室町時代)は伝  
宅間法眼作。左は新十一面  
観音像と呼ばれており、3代  
前の住職によって造願され  
たもの。右奥には観音三十三  
応現身立像が見える。

茅葺きの本堂。手前にならぶ五輪塔群と  
林立する白い織が、古刹の風情を際立たせ  
ている。



## 3体の秘仏観音 霊験信仰が今も息づく



鎌倉仏像散歩の二階堂十一箇所

### 十一面観音立像(秘仏本尊)

お前立ちの奥に奉安される秘仏本尊のうち、行基作と伝える第一の像は、像高153センチ、素木の一本造(11世紀ごろ)。円仁作と伝える第二の像は、像高166.7センチ、寄木造漆塗彩色(平安後期ごろ)。恵心僧都作と伝える第三の像は、像高142センチ、寄木造漆塗彩色(鎌倉中期ごろ)。

#### 杉本寺(天台宗)

鎌倉市二階堂903 ☎0467-22-3463 ●JR鎌倉駅東口より金沢八景方面行きバス「杉本観音」下車、徒歩1分◎拝観情報＝拝観料大人200円、子供100円、8時～16時半。入堂は随時。1月、5月、9月の1日と18日、四万六千日(8月10日)の縁日には奥の扉が開かれ、護摩供参列者のみ秘仏本尊を拝することができる。

石段を昇ると、まず山号の額が掲げられた仁王門が現れ、やがて苔むした石段の奥に目ざす本堂が見えてくる。



写真1 染谷孝

の地蔵菩薩立像などが安置されており、前立ち像や毘沙門天像とともに間近に拝することができる。

現在、本堂のお前立ち像の裏に拝所があり、奥の間に件の行基仏のほか、重文指定の2体、合計3体の秘仏観音が安置されている。そのお姿は、透し扉越しにうすらと拝見できる。いや、見えずともその存在はありありと感受される。そこが趣深い、かわりにというわけではないが、本堂右脇には計35体の観音応現身像左脇には鎌倉・室町時代造立の2体

急な石段を登ると、「大蔵山」の額を掲げる山門(ごしに、苔むした石段と茅葺きの本堂が見えてくる。鎌倉の寺めぐりをしながらも、ここだけ時間の針がぐっと古に巻きもどされたような錯覚を覚える。実にこの寺は、奈良時代、行基が刻んだ観音像を安置したことに始まり、光明皇后が観音のお告げで本堂を建立したと伝わっている。古くから霊験仏の観音さまを祀る霊場として知られ、寺の前を馬に乗ったまま通ると必ず落馬するとされたことから「下馬観音」とも、その霊験ゆえ建長寺開山の蘭溪道隆がねんごろに祈願し、観音像を襲撃で覆ったことから「覆面観音」ともいわれた。

急な石段を登ると、「大蔵山」の額を掲げる山門(ごしに、苔むした石段と茅葺きの本堂が見えてくる。鎌倉の寺めぐりをしながらも、ここだけ時間の針がぐっと古に巻きもどされたような錯覚を覚える。実にこの寺は、奈良時代、行基が刻んだ観音像を安置したことに始まり、光明皇后が観音のお告げで本堂を建立したと伝わっている。古くから霊験仏の観音さまを祀る霊場として知られ、寺の前を馬に乗ったまま通ると必ず落馬するとされたことから「下馬観音」とも、その霊験ゆえ建長寺開山の蘭溪道隆がねんごろに祈願し、観音像を襲撃で覆ったことから「覆面観音」ともいわれた。